別紙４

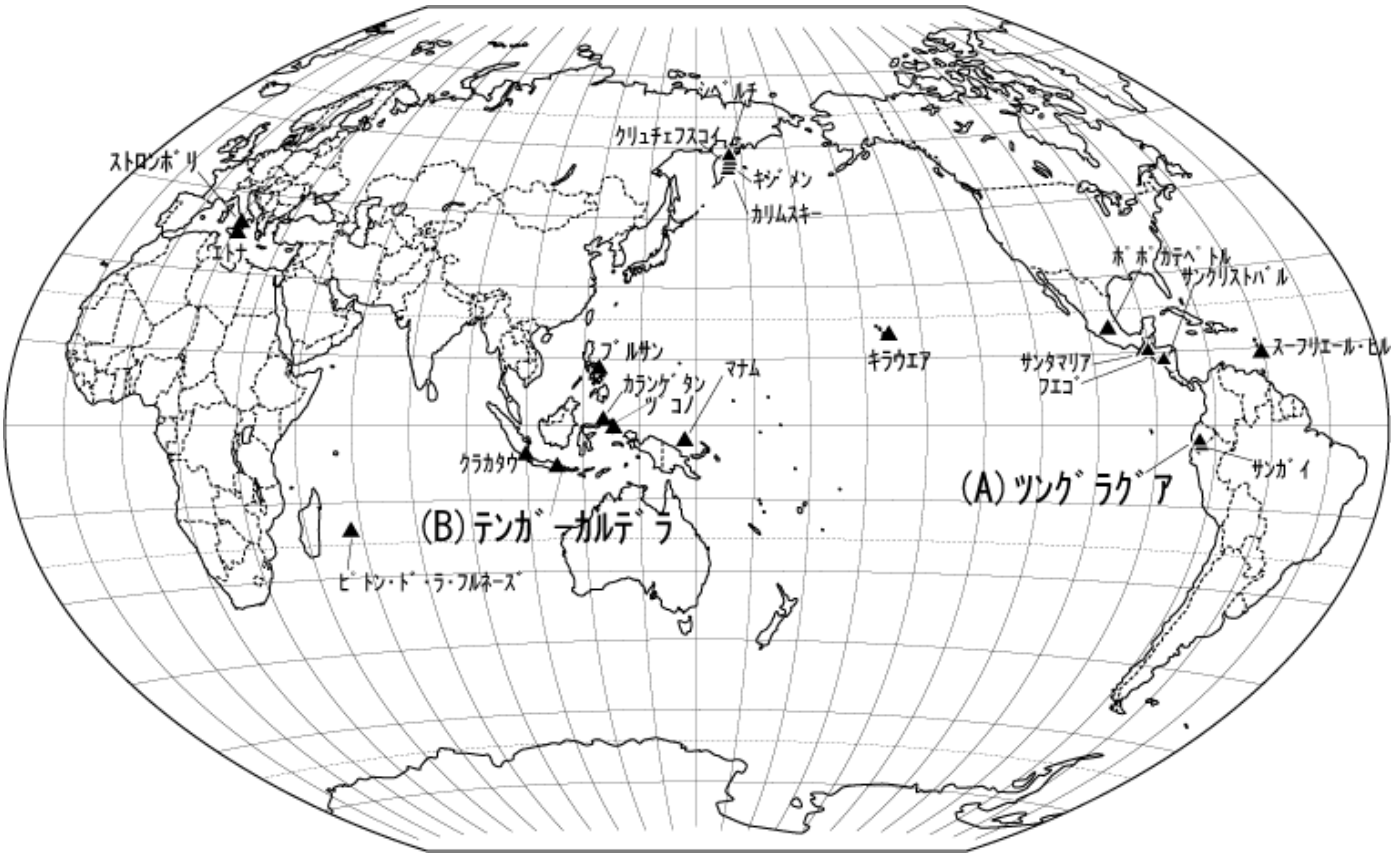
● 世界の主な火山活動

平成 22 年（2010 年）12 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

ツングラグア（エクアドル）（図中Ａ）

11 月後半以降活発化した活動は、12 月も継続した。４日には多数の激しい爆発とともに火砕流が発生し、山頂から８ｋｍ以内の人々が避難した。また、数十万立方メートルと推定される量の溶岩流が西側斜面を約１ｋｍ流下したことが確認された。その後も期間を通して爆発及びそれに伴う噴石の噴出、降灰や鳴動、空振がみられた。

テンガーカルデラ（インドネシア）（図中Ｂ）

11 月 26 日の噴火以降活発化した活動は、12 月に入り一時弱まったものの、19 日に発生した爆発で火口縁上２kmまで噴煙が上がり、70ｋｍ北北西の地域で降灰がみられた。この噴火に伴う降灰によって農業被害や輸送インフラの混乱が発生した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）